

地域が育む「かごしまの教育」県民週間

11月1日(月)～7日(日)は、地域が育む「かごしまの教育」県民週間でした。
11月4日(木)3校時(9:45～10:30)には、全学級において道徳の授業を公開いたしました。お忙しい中、多数ご参観いただき、ありがとうございました。

各学級の授業

級名	内容項目(どんな道徳性について学ぶか)	教材名(どんな読み物等をとおして学ぶか)
1年	友情, 信頼	二わのことり
2年	個性の伸長	わたしはだれでしょう
3年	正直, 誠実	まどガラスと魚
4年	自然愛護	ヒキガエルとロバ
5年	自由と責任	うばわれた自由
6年	勤労, 公共の精神	自分にできること

1年生の授業(友情・信頼)より

<こんな学習をしました>

「二わのことり」という教材を読んで、「友達と仲よくすることや助け合うことの大切さ」について学習しました。

<ねらい>

友達のことを思って、大切にすることの喜びに気づき、友達と仲よくしようとする心情を育てる。



教材の内容

みそさざいは友達のやまがらの誕生日に、暗くて山奥にあるやまがらの家に行くか、それとも明るく、音楽会の練習があるうぐいすの家にみんなと一緒にいくのかを迷う。結局は、うぐいすの家に行ってしまうが、みそさざいはそれほど楽しくない。みそさざいは、こっそり抜け出してやまがらの家に行き、やまがらは目に涙を浮かべて喜ぶ。

《やまがらの涙を見たみそさざいの気持ち》

- ごめんね。遅くなって。もっと早く来てあげればよかった。
- どうして泣いているのかな。泣かせたくなかったな。
- やまがらの家に来てよかったな。喜んでくれてうれしい。
- 誰も来てくれなくて、寂しかったのかな。
- 最初から、やまがらの家に行ったらよかったかな。
- うぐいすたちも呼んで、みんなで集まったらよかったな。
- みんなで集まって、やまがらのお祝いをしたらよかった。



《学習を通して～友達を大切にするために～》

- 友達の手伝いをしてあげたら、「ありがとう。」と言われてうれしかった。自分もしてあげたい。
- 友達に手紙を書いて喜ばせたい。
- 友達が困っていたら、助けてあげたい。
- 友達のことを考えて、優しくしてあげたい。
- 「大丈夫？」と声をかけてあげたい。
- 友達が喜ぶようなことをしてあげたい。

5年生の授業(自由と責任)より

教材の内容

ある国の王子、ジェラルはやりたいことは何でもやる、ほしいものは何でも手に入れる若者である。ある時ジェラルは禁止されている森で銃を放ち、森の番人、ガリユーにとがめられると、王子に逆らったとガリユーを捕えてしまう。数年後ジェラルは王になり、ますます勝手気ままな生活を送り、国は混乱していく。すると、王は裏切りにあい、捕らわれの身となる。牢屋で会ったのは、かつて自分が捕えたガリユーであった。ガリユーは先に牢屋を出ることになったが、「ここから出たら本当の自由を大切に生きていきましょう。」と残して去っていく。

<こんな学習をしました>

「うばわれた自由」という教材を使って、「自由と責任」について学習しました。
<ねらい>
「自由」とは自分のしたいことを自分勝手にすることではなく、みんなが規律を守ることによってそれぞれの「自由」を保障されることに気づき、責任ある行動をとろうとする心情を育てる。



《子どもの振り返りより》

- 自分だけよいというわけではない。
- 自由とわがまは同じではない。
- 自由は楽しいことだけではなく、自由すぎてもよくないことになったと思った。
- 決まりがあって、その決まりをまもらないとジェラル王子のような国になると思った。
- わがまは人のためにならない。
- 楽しむことはいいけれど、決まりも守らないといけないと思った。
- ルールはとても大切だと思った。
- 「これまでの自分はどうだったかな」と思った。先生がプールの時の自由時間の話をしたとき、自分のことしか考えていなかったかもしれないと思った。

《学習を通して～本当の自由とは》

- 楽しく生きる。
- やるべきことをやってから楽しむ。
- 楽しくするのはいいけれど、ルールがあることも忘れない。
- 自由とは、ずっと好きなことだけをするのではない。
- わがままでもない、自分勝手でもない。
- やるべきことはしっかりやって楽しむことだと思う。
- たとえ王でも国のルールは守らないといけない。
- 決まりを守って公平に生きる。
- 自分だけではなく周りの人のことも考えて行動する。